事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 30 年　10 月 24 日(19:30　～　21:30　　)
１．初期支援（はじめのかかわり）	ﾒﾝﾊﾞｰ	寺田・大石・飯田・玉井・高橋・西田・末松

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
⓪	前回の課題について取り組めましたか？	０人	３人	４人	０人	７人

前回の改善計画
紹介元に認定調査票を依頼する事で、詳細な情報を得られるようにする。

前回の改善計画に対する取組み結果
管理者の変更や職員の入れ替わりがあり、前回の改善計画への取り組みが実施する体制が作れなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか？	1	6	0	0	7
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか？	1	6	0	0	7
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか？	3	4	0	0	7
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか？	1	4	2	0	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
新規利用者の情報について会議やミーティングでの情報共有を行っている。今までの生活歴や最近のご様子ご家族との関係やご意向などは事前に把握できるよう努めている。またご利用時の様子や家族とのやり取りなどをこまめにケース記録に記載し全職員が情報を周知し統一したケアが図れるよう取り組んでいる。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
新規利用時の情報が不十分なこともあり、利用開始してからわかる情報も多い。また事前の情報と相違があった際などは支援方法の検討が難しく職員個々に支援方法が変化してしまう。サービスの統一を図るため職員間で検討し共有を図るのに時間を要し、ご利用者やご家族に迷惑をかけることもある。	

次回までの具体的な改善計画	（200 字以内）
改善計画を見失わずに周知できるよう、毎月の職員会議で実施状況を評価する仕組みを作る。 また事業所評価の時期を年間計画に入れ込む。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 30 年　10 月 24 日(19:30　～　21:30　　)
２．「～したい」の実現（自己実現の尊重）	ﾒﾝﾊﾞｰ	寺田・大石・飯田・玉井・高橋・西田・末松

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
⓪	前回の課題について取り組めましたか？	１人	５人	１人	０人	７人

前回の改善計画
雑務等については複数の利用者に挙がっている為、利用者の特性に合わせ具体的なプラン作成を行う。 各利用者のプランを職員各々がケース記録の支援内容欄を参照する等して再度認識し、意識的に取り組む。
前回の改善計画に対する取組み結果
利用者の適正に合わせてプランは上がるが､利用者の身体的能力や取り巻く環境の変化が目まぐるしく対応しきれなかった点が見られた。できている点とできていない点に分かれた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	「本人の目標（ゴール)」がわかっていますか？	0	5	2	0	7
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか？	1	5	1	0	7
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか？	1	4	2	0	7
④	実践した（かかわった）内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かせていますか？	0	5	1	1	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
ケース記録にケアプランの内容を記載することでご利用者個々の目標を意識してサービスを実施することができている。ケア会議を開催しケアプランの振り返りや評価を実施し、現在のサービスが適正であるかを確認しできる限り職員全員での検討を実施できている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
職員間での意識や意見の相違があり、支援方法の実施が難しいときや支援内容が困難な場合もある。また迅速な対応が必要な場合にすぐに検討が難しく職員個々の判断となってしまう。	

次回までの具体的な改善計画	（200 字以内）
会議の場で討議および事前に意見収集ができる体制を強化する。 無理に意見を徴収するのではなく、個々が思い抱いている事をはっきりといえる環境つくりを行う。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 30 年　10 月 24 日(19:30　～　21:30　　)
３．日常生活の支援	ﾒﾝﾊﾞｰ	寺田・大石・飯田・玉井・高橋・西田・末松

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
⓪	前回の課題について取り組めましたか？	０人	５人	１人	１人	７人

前回の改善計画
前回の計画である、生活歴に焦点を合わせた関りと情報収集を継続し、より具体的に有効活用する為にセンター方式シートの導入を行う。 また、ケアマネジャーはモニタリング時に得た情報を迅速に現場職員へ引き継ぐようにする。

前回の改善計画に対する取組み結果
引き継がれる内容が希薄で提示時期が遅い。人事異動や退職等で情報収集が疎かになり期待のできる結果を得ることができなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が 10 個以上把握できていますか？	0	1	4	2	7
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか？	1	5	0	1	7
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか？	0	6	1	0	7
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか？	0	6	1	0	7
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか？	0	5	2	0	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
支援内容の変更が必要なときは引き継ぎノートやケース記録に記載し、その都度職員間での連携を図り、支援方法の検討を実施している。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
ご利用者によっては生活歴などの把握が難しいこともあり、現在の生活状況に合わせたサービスとなっている事もある。	

次回までの具体的な改善計画	（200 字以内）
職員間の情報共有とモニタリング時の聞き取り内容提示を迅速に行い、全職員が内容を把握できるようする。会議の場での検討時により多方面的観点から討議できる体制をつくる。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 30 年　10 月 24 日(19:30　～　21:30　　)
４．地域での暮らしの支援	ﾒﾝﾊﾞｰ	寺田・大石・飯田・玉井・高橋・西田・末松

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
⓪	前回の課題について取り組めましたか？	０人	４人	３人	０人	７人

前回の改善計画
モニタリングは、問題点に焦点を当てすぎず、自宅での生活の全体像を把握できるようにする。 地域資源に関しては年間研修予定に組み込まれており、次年度も引き続き研修を行うことで職員育成に努める。
前回の改善計画に対する取組み結果
研修を実施しモニタリングの重要性を周知することはできたが、職員によって利用者とのかかわり方の頻度に差があり、思いに温度差がある。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか？	0	5	2	0	7
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか？	0	4	3	0	7
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか？	0	1	6	0	7
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか？	0	2	3	2	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
譲歩収集シートを活用し生活状況の把握に努めている。ご本人やご家族のお話された内容や連絡ノートに記載されている情報を共有している。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
ご家族からの情報収集が難しい方などの生活状況を把握することは難しい。 現在利用されている限られた地域資源の活用はあるが、新たな地域資源を開発するには至っていない。	

次回までの具体的な改善計画	（200 字以内）
情報共有の場の確立とケア内容の統一性が取れているのかを見直し、地域資源の活用や他職種との連携をとり、利用者が「その人らしい生活」が長く送れるよう支援を行う。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 30 年　10 月 24 日(19:30　～　21:30　　)
５．多機能性ある柔軟な支援	ﾒﾝﾊﾞｰ	寺田・大石・飯田・玉井・高橋・西田・末松

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
⓪	前回の課題について取り組めましたか？	０人	６人	１人	０人	７人

前回の改善計画
14 時以降に引継ぎは行っていないが、大きな問題は見られない為、現状通りとする。 インフォーマルサービスを全利用者に取り入れる必要性はないが､利用者の変化に合わせ即自的な対応が出来るよう細心の状態の把握に努める。

前回の改善計画に対する取組み結果
利用者に今何が必要か…に対しての迅速な行動ができなかった。支援が後手に回ることが多くあった。 インフォーマルのサービスとは何か？をしっかりと理解していない職員もいることがわかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？	0	3	4	0	7
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	2	3	2	0	7
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか？	1	6	0	0	7
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？	1	6	0	0	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
引き継ぎ行うことで職員全員が共有を図り、柔軟な対応が実施できている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
地域資源についての知識の不足や地域との交流が少なく、地域資源はあまり活用できていない。	

次回までの具体的な改善計画	（200 字以内）
研修や地域とのかかわりをもつことで地域資源についての知識の向上を目指す。 必要に応じてミーティングの場を設け情報の共有を行う。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 30 年　10 月 24 日(19:30　～　21:30　　)
６．連携・協働	ﾒﾝﾊﾞｰ	寺田・大石・飯田・玉井・高橋・西田・末松

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
⓪	前回の課題について取り組めましたか？	０人	２人	４人	１人	７人

前回の改善計画
法人本部と連携し、人員不足の解消に努める。 地域内の他事業所との交流機会を促進し、催事への参加や情報交換を相互で行えるように努める。

前回の改善計画に対する取組み結果
人員の補充はあるものの、育成の仕方や個々の意向の相違から長続きせず、職員の入れ替わりだけが目立った。地域のサロンの手伝いには若干ではあるが参加できた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	1	0	1	5	7
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	0	0	2	5	7
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	0	1	2	4	7
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	0	2	1	4	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
地域サロンへの参加や毎年恒例となっている夏祭り行事を行い、地域の方との交流を図っている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
地域サロンにも人員体制によっては参加できず、地域交流の機会が減っている。	

次回までの具体的な改善計画	（200 字以内）
前回同様、人員の補充と人材育成を行う。新しい体制作りを行い仕事のしやすい職場環境作りを行う。 地域との関わりや他職種との連携内容は情報として全職員が共有できる体制を作る。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 30 年　10 月 24 日(19:30　～　21:30　　)
７．運営	ﾒﾝﾊﾞｰ	寺田・大石・飯田・玉井・高橋・西田・末松

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
⓪	前回の課題について取り組めましたか？	０人	１人	４人	２人	７人

前回の改善計画
苦情に関する研修を通し、表面化されていない苦情も汲み取れるよう努める。 地域との協働に関し、他事業所の取り組み例を参考に出来るよう情報収集を行う。

前回の改善計画に対する取組み結果
研修を行い知識の向上はできた。 地域からの情報や他事業所の取り組みについての情報が少なく、情報収集力の弱さが目立った。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか？	0	5	1	1	7
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか？	0	3	3	1	7
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか？	0	4	2	1	7
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか？	0	1	4	2	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
ご意見やご要望については情報共有し迅速に対応できている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
地域の方や地域事業所との交流の機会がない。	

次回までの具体的な改善計画	（200 字以内）
外部の集会や他事業所との情報交換を行う。 得た情報は全職員で共有できるようにする。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 30 年　10 月 24 日(19:30　～　21:30　　)
８．質を向上するための取組み	ﾒﾝﾊﾞｰ	寺田・大石・飯田・玉井・高橋・西田・末松

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
⓪	前回の課題について取り組めましたか？	０人	３人	２人	２人	７人

前回の改善計画
職員体制の都合もあり、外部研修への参加が滞ってしまった。職員体制を整え、外部研修への参加を促進する。また、職員個々の希望もあるが、必要とされる研修を管理者が整理し、参加できるよう留意する。 リスクマネジメント委員会における情報の周知は継続的に行えるよう、議事録の開示及び職員会議での補足を行う。
前回の改善計画に対する取組み結果
職員体制の不備により外部への研修への参加滞ったままだった。リスクマネジメントについては事業所内研修にて情報の落とし込みは行えたが、全職員までには至らなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	0	4	1	2	7
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	0	3	0	4	7
③	地域連絡会に参加していますか	0	0	1	6	7
④	リスクマネジメントに取組んでいますか	0	4	2	1	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
事業所内研修にはできる限り多くの職員が参加することができている。 外部研修や法人の研修機会も作ることができている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
外部研修や事業所内研修に全く参加できない職員もいる。 地域連絡会に参加できていない。	

次回までの具体的な改善計画	（200 字以内）
研修に参加できない職員への伝達手段の強化、口頭やレジュメだけで伝達するのではなく研修内容に沿った伝達研修を日勤帯に時間をつくり行うようにする。 リスクマネジメントについては引き続き研修などをとおして意識を高めていく。 ヒヤリハット活動の重要性、介護事故防止努めていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 30 年　10 月 24 日(19:30　～　21:30　　)
9．人権・プライバシー	ﾒﾝﾊﾞｰ	寺田・大石・飯田・玉井・高橋・西田・末松

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
⓪	前回の課題について取り組めましたか？	1 人	4 人	2 人	0 人	7 人

前回の改善計画
今年度より導入した接遇に関する振り返りを今後も継続。気付きを共有し、自身のケアについての見直しや戒めをする。 年間研修計画に組み込まれている、虐待・権利擁護に関する研修を次年度も実施する。

前回の改善計画に対する取組み結果
研修や会議にてプライバシー保護、高齢者虐待の防止、身体拘束適正化についての反省と防止に努めた。 会議の場で話し合うことによって情報の共有を行うことができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	身体拘束をしていない	4	3	0	0	7
②	虐待は行われていない	3	4	0	0	7
③	プライバシーが守られている	3	2	2	0	7
④	必要な方に成年後見制度を活用している	3	3	1	0	7
⑤	適正な個人情報の管理ができている	3	2	2	0	7

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
身体拘束や虐待は行われていない。 職員会議やケース会議で身体拘束の禁止や虐待の防止について確認している。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
個人情報やプライバシーの保護について対応が難しい。 職員同士の話がご利用者に聞こえてしまうことなどがある。	

次回までの具体的な改善計画	（200 字以内）
引き続き虐待の防止、身体拘束の適正化に努め研修や会議の場で情報の共有を行う。	

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人 柊野福祉会	代表者	杉本　豊平
事業所名	ガーデンハウス下鴨	管理者	寺田　一貴

法人・事業所の特徴	（法人）　昭和５６年に誕生し、京都市北区の特別養護老人ホームを中心として、京都市内に多様・多数の高齢者福祉事業を展開している。 （事業所）平成１９年より、由緒ある左京区下鴨で事業を開始。民家を改修した温かみのある建物である 登録２５名・通い１５名・宿泊５名を定員として現在運営をしている。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民･地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	４人	人	１人	１人	人	１人	人	８人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み･結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	計画的・効率的に事業所評価を行えるよう、実施すべき工程を整理したうえで取りかかる必要がある。また、引き続き職員体制の安定に努めていく。	管理者の変更や職員の入れ替わりがあり、前回の改善計画への取り組みが実施する体制が作れなかった。職員体制を安定させることができなかった。	日々努力されていると感じることができる。 職員体制の安定に努めてほしい。	改善計画を見失わずに周知できるよう、毎月の職員会議で実施状況を評価する仕組みを作る。また事業所評価の時期を年間計画に入れ込む。
B．事業所のしつらえ・環境	日に数回換気の機会を設け、より利用者にとって居心地のよい事業所となれるよう努めていく。 書類保管の目的で庭に物置を購入し、設置している。書類の整理を的確に行うことで、 保管に支障が出ない様努めていく。	小さな事業所であるため収納スペースはほとんどないが、整理整頓を心掛けることで、居心地の良い空間つくりに努めることができた。	綺麗な施設で過ごしやすく感じる。 近隣住民の方からの苦情なども聞いたことがないので、よいと思う。	引き続きご利用者にとって居心地の良い空間つくりと地域の方には開放的に感じて頂けるよう、介護事業所であることを発信していく。
C．事業所と地域のかかわり	事業所を地域の方に知ってもらえるよう、催事などへの協力と事業所行事の開催を通して取り組んでいく。そのためにも安定した職員体制の構築ができるよう、法人の人事とも連携しながら取り組みを行う。	挨拶を大事にし、近隣の方とは顔なじみの関係を作ることができている。職員の入れ替わりが多かったので、また新たに顔なじみの関係を作る必要がある。職員体制が安定しないことですこやかサロンなどの地域行事に参加することが難しくなっている。	職員の皆さんは明るく利用者や外部の方にも接しられている。 地域行事や催事ごとは地域から要請するのは職員の負担になるので頼みつらい。但し学区の社会福祉協議会が実施しているすこやかサロンには参加いただいている。	顔なじみの方以外でも地域の方に知っていただけるよう、玄関をご利用者の方と作成した作品を飾る事や、案内を掲示するなどで地域への情報発信や事業所の周知を行う。

D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	例会に参加する機会を増やすため、勤務調整を行っていく。 利用者が地域行事に参加する機会を増やすため、社協などの関係機関と連携し、情報収集を行っていく。 事業所から自発的に動くことは難しいが、地域の利用者以外の方で検討する必要があった場合、地域包括と連携し、必要な協力をしていく	事業所内の活動だけでなく、外に出かける機会（なじみのお店へ買いもの・散歩・ドライブ・外食等）を作ることができている。職員体制が十分でないときはそのような支援が不十分になってしまっている。	近くの公園に散歩したり、送迎車などで日中にドライブに出かけたり、事業所から外に出かける機会を多く作っておられると思う。	事業所内での活動だけでなくご利用者が地域に外出できる機会やレクリエーションなどの楽しみの機会を積極的に企画実施していく。
E．運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議での構成員からの提案や助言について会議で検討し、成果等を報告していく。	運営推進会議は地域の方の参加が多く、事業所と地域との情報共有が活発に行うことができている。	地域とのかかわりを積極的に持とうと努める姿勢が感じられる。 会議での各団体の報告をうまく利用し、利用者さんのレクリエーションに取り組んでおられます。	地域の方との交流が互いに相談できる関係を築き、顔の見える関係構築を行います。気兼ねなくお話しできる雰囲気作りを行います。
F．事業所の防災・災害対策	防災訓練に地域住民の参加があったが、今年度はなく、定着していない。 構成員の方々を中心に、１人ずつでも参加していただけるよう計画・実行をしていく。	法人全体での防災会議や防災対策準備（備蓄品や発生時の対応）を実施している。事業所内だけでの対策にとどまっている。	地域は高齢化率が著しく高く、平日の昼間に災害が起これば頼りにしたい。 地域の方と職員の方々との顔が見える関係を構築したい。そのために地域の各種団体では町内にお世話係りを置いているが、そのうち一部でも担っていただけるとありがたい。 防災訓練は必要ですが実際に災害が発生した際は職員さんの数だけでは難しいと思います。	防災訓練や防災研修を実施し、防災意識を高めます。 事業所内の避難訓練や防災対策だけでなく、地域の防災訓練に参加し、町内の方や地域の方との協力関係を築きます。